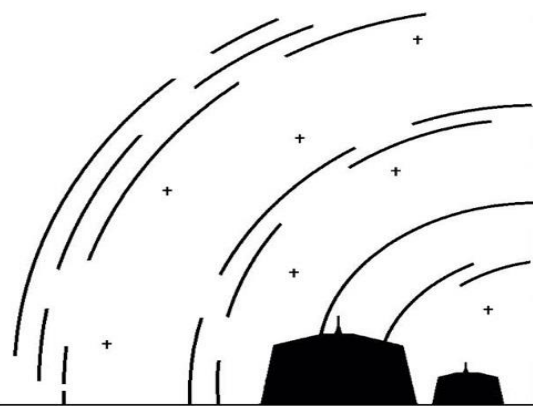


Mongol Ex. 2014

8.10~8.20



目次

- ・メンバー紹介
- ・日別活動報告書
- ・フリーテーマエッセイ
- ・意外と必要！持ち物リスト
- ・PHOTO GALALY

* E x .の概要

・開催の目的

日常から遠く離れた何もない草原や、首都・ウランバートルという独自の環境におけるモンゴル人学生との共同生活や国際交流を通して、国際的な相互理解を推進する。相互理解を深めることで、国を超えてお互いにより深い絆を築く。一人一人が幅広い視野を持って、国際的相互を深め、**I.S.A.**の理念である世界的平和に貢献を努める。

・協力団体・協力者

Bold Javkhantugs さん（モンゴルの日本人教師）

University humanities の生徒と卒業生

メンバー紹介

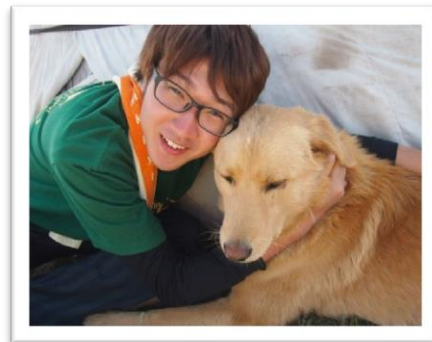
- ・ 二宮 奨（文化紹介）

神戸支部 5年



- ・ 木村 竜也（団長）

神戸支部 4年



- ・ 森本 悠生（副団長）

神戸支部 4年



- ・ 山内 遼太（副団長）

神戸支部 4年



- ・ 西端 優（文化紹介）

神戸支部 4年



・関本 望 (SNS・報告書)

九州支部 4年

・神夏磯 晴香 (勉強会)

神戸支部 4年

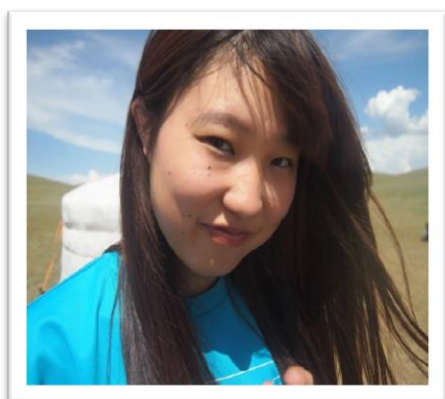


・田中 啓太 (薬係)

神戸支部 4年

・佐々木 唯衣 (文化紹介)

神戸支部 3年



・織田 安奈 (国際渉外)

岡山支部 3年

- ・柳瀬 梨央 (チケット)
神戸支部 3年



- ・登森 知奈美 (財務)
岡山支部 3年

- ・田井 菜々子 (文化紹介)
神戸支部 3年



- ・簀淵 絢子 (報告書)
神戸支部 3年

日別活動報告書

Ex. 1日目 8月10日

佐々木 唯衣

この日は、草原に出発の日。9:30 ロビー集合で10:00に草原に向けて出発進行\ (^o^)/期待と不安を抱えながら、バスに揺られ約3時間!道がとてもガタガタしていて徐行運転並みのスピードで進んで行く。でも、キムタツさんのスピーカーで音楽鳴らしてみんなでワイワイガヤガヤ♪♪あっという間にゲルに到着。バスを降りた瞬間に広がる辺り一面の草原に感動♡それぞれが写真を撮ったり、ボール遊びをしたり、トランプをしたりと様々な遊びで楽しむ。草原で初めての昼ご飯はカレー♪♪日本の味と似ていて、草原1日目にして少しだけ日本が恋しくなる(笑)美味しかった!少し休憩して、ワクワクのトイレ作り♪♪地面を掘って掘って掘りまくって、5mぐらいの深さに!そこから、しっかりと周りから見えないように囲いを作って完成☆ん?!後ろから見たら丸見え?! そんなの気にしないのがモンゴルEx(笑)そんな中、好奇心旺盛な何人かで山の上に登ってみる。近いように見えて、案外遠くハードな道のり。上に行くにつれ寒くなっていたけど景色は最高だった(^o^)ゲルに戻って、みんなで日本のゲーム(だるまさんが転んだ・ハンカチ落とし)やモンゴルのゲーム(人間知恵の輪・動作暗記ゲーム・数字集合ゲーム)などをして遊ぶ。今日が初対面だったモンゴル人参加者との距離が少し縮まったように感じた♪♪

みんなでひたすら遊んだ後はお楽しみの晩ご飯!!この日のメニューはスープにマカロニが入ったもので少し薄味だったが美味しかった♡ご飯を食べ終わる頃にはすっかり暗くなり、予想以上の寒さ。モンゴルの寒さをなめていた、、(笑)そんな中のキャンプファイヤー♪♪みんなで火の周りに集まって暖まる。ダンスを踊ったり、お酒を飲んだり。噂通りウォッカ登場で初ウォッカをゴクリ。まずいw消毒液の味がした!(笑)みんなかなり酔いつぶれて各自就寝(▽▽)草原1日目は、なかなか濃かった!!



神夏磯 晴香

初日！

今日は朝9時ごろにウランバートルのホテルを出発し、車内は音楽をかけ、私たちは街中から、素晴らしく険しい道をずんずん、ずんずん、ずんずん進んで草原へ。そこには、緑に映える真っ白なゲルがっ！！
あっ！モンゴルだっっ！！と言うのが1番の感想。

初めて見渡す限りの緑をみた。

初めて真っ白なゲルをみた。

初めてこんなに青く透きとおる空をみた。

初めてのメンバーで、みんな初めてのモンゴル。

見渡す限り何もない場所に、私たちの初めてが沢山つまっていた。

期待と不安でいっぱい荷物をゲルの中に運んだあとは、待ってましたと言わん

ばかりに、草原遊びを開始するわたしたち。笑

鬼ごっこ、なわとび、ボール遊び、フリスビー！

あれ？私達、全員20代だよね？と言うほどのはしゃぎよう。

でも、モンゴルに降り立った人ならきっと、この気持ちがわかるはず！

お腹空いたなあと、思った頃に、美味しそうな匂いが♡

お昼ごはんは肉じゃがのようなもの、美味！

お腹がいっぱいになったら、トイレ作りをかいし！

掘っても掘っても、てっぺいからはまだだ！まだだ！と言われ掘り続ける男子メンバー。ずんずん掘って行き、完全なる落とし穴が完成。これが、私たちが草原で利用することになるトイレ！

作ってくれてありがとう！男子メンバー(。o。o。)

よるごはんを食べてからは、キャンプファイヤー！車で爆音をあげて、草原は一瞬にしてクラブに。すごいな、わお！踊る人、お酒を飲む人、炎を眺めながらお話をする人、夜は様々な過ごし方ができる！



今日のほしぞらは、月が明るすぎてあんまり見られなかった、残念。

また明日に期待して今日はおやすみ♡



Ex. 2日目 8月11日

木村 竜也

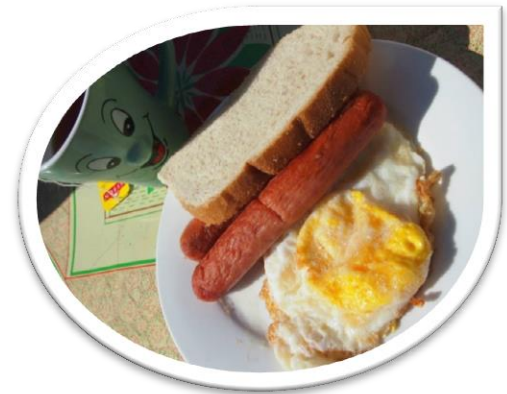
俺起床。時間は分からない。異変に気付く。なぜ私は車の中にいるのだろうか。隣にはタンク。どうやら、水を汲みにいくらしい。しかし、考える。車に乗った記憶がない。

そうこうしていると、小屋に到着。タンクを持って外へ。体が震える。パパさまと共に水を汲み、戻る。車を走らせ、しばらく行ったところでパパさま俺に呟く。「お前さん、今朝ここにいたんだぜ」。見るとそこは芝生。めっちゃ芝生。どうやら俺、凍死しかかっていたらしい。どうりで、体が冷え切っているようだ。

二日目ということで、朝食が出る。ソーセージ、卵、パンだ。各々、ジャムで工夫をする。何気に草原生活の楽しみとなる朝食である。どうやら、今日は“亀岩”へ行くらしい。

バスへ乗り込み約2時間。道中、昨晚の酒の影響か、死屍累々である。おいたん、普通に酔う。さて、亀岩とやらとご対面。思ったより、でかい。そして亀だった。みんなで写真。

この日は、岩山に、ピクニックに川遊びに。モンゴルの自然を満喫した一日であった。



西端 優

昨日の晩は夜中までウォッカを飲みながらキャンプファイヤーを囲んでみんなで踊ったり流れ星見たり。ぐっすり眠って9時に起床。今日のイベントは亀岩観光！

バスに揺られて約2時間半、草原の景色とは一変して岩山や背の高い尖った木が生い茂る高原に到着。バスを降りると、大きな大きな亀が！想像以上に綺麗な亀の形をしていて驚きました。亀岩は、ウランバートルから一番近いとても人気の観光スポットだそうで、モンゴル人のツーリストキャンプ場と外国人の観光用キャンプの二つが備わっているそうです。

亀岩探検が終わるともう少し奥地へバスで進み、ピクニックランチタイム＾＾可愛いお花がたくさん咲いている景色の綺麗な場所で、ホーショール（肉を小麦粉で包んで揚げたモンゴル料理）を頂きました。そして団長のスピーカーでジブリの曲やビートルズの曲を聴きながら花冠を作ったり、とっても優雅な昼下がりをお過ごししました。その後みんなで、モンゴル人メンバーに日本名を、日本人メンバーにモンゴルネームを付け合いました。私は「ウユンガ」という名前をつけてもらいました。曲が流れるように穏やかで美しいという意味だそうで、自分の「優」という名前にちなんでつけてもらって、とっても嬉しい！

帰りのバスでは日本の歌とモンゴルの歌を交互に流しながら、話したことのなかったモンゴル人メンバーの子たちと家族の話や趣味の話をゆっくりたっぷりして、さらに仲良くなれた気がしました。

そして最後に立ち寄ったのはヨーロッパの高原の絵葉書になりそうなくらいきれいな川のほとり。夕陽を浴びながら水遊び！着替えもないのにビショビショになりながら遊んで、ゲルに帰りました。帰ってきてからは一ちゃんとのお前髪断髪式（爆笑）をして、ゲルの中であんなの着替えを手伝い（爆笑）、だんだんみんなの素顔が見えてきてとっても嬉しい2日目でした。今日は天気がいいから星いっぱい見えたらいいなあ…。暗くなって手元が見えないので日記おしまい。笑



Ex. 3日目 8月12日

二宮 奨

前日に比べダラダラしたいい日でした。ダラダラしながら皆の将来について聞いたのを覚えています。じゅんくんは日本に留学して日本の建築技術を学んでモンゴルでそれを活かした仕事をしたいのだそうです。17歳なのにそこまで考えているじゅんくんに感動しました。のぞみくんは将来地方のアーティストに活躍の場を与える仕事をしようとしているそうです。皆将来のことを考えていて偉いなと思いました。



その後乗馬しました。僕はとても下手でした。恐らく手綱を強く持ち過ぎたため、馬をイラつかせてしまったそうです。マジ申し訳ねえ。日本に帰ったら僕は馬には乗らないようにしようと思いました。乗馬をする際馬とのコミケはとても大事だということを知りました。先の例然り馬は自分に乗っている人間が乗馬が

上手いか分かるそうなので、下手な人は意地悪したりするそうです。馬も頭がいいんだなと思いました。馬は自重しようと思います。バイクに乗りたいなと思いました。

ほいで僕らは運良く遊牧民の家へお邪魔させてもらうことになりました。そこで馬乳酒を頂きました。思いっきりお酒でした。アルコールありました。味は酸っぱかったです。これを夏の間は飲みまくるそうです。もはやご飯なんだそうです。すげー。あと遊牧民がスマホをいじってるのが印象的でしたw

夜はクラブっぽいノリでした。その前に僕は格闘技談義をしていました。めちゃめちゃ楽しかったです。それでクラブっぽいのをしました。苦手なんです。が予想以上に楽しかったです。

柳瀬 梨央

今日の午前中は乗馬をしました。

私は馬に乗ることが始めてで昨日からとてもワクワクしてました。

馬はずっと頭を揺らして、「こんなんでも暴れださないのかな。」と不安でしたが実際乗ってみると思ったより揺れず、安定感がありました。

私たちが乗る交代の間モンゴル人メンバーの男の子たちは馬を疲れさせるために馬で草原を駆けていました。

馬に乗るときは馬の後ろ側と右側は通っては行けないという決まりがありました。それはそこを通ると馬に蹴られるかもしれないからだそうです。

モンゴル人の人口の半分はウランバートルで、もう半分は草原で生活していて、学生は夏休みの間草原に住む親戚のところに預けられ、そこで、優しい馬に乗って遊牧のお手伝いなどして馬の乗り方など学んでいくそうです。



お昼はスイカを切ってくれてみんなで食べました。スイカの種をどこにでも飛ばすことが出来るのはモンゴルの草原ならではのことで感じました。

午後はフェイスさんがハレハレ愉快のダンスを教えてくださいました。はじめは日本人だけでやっていたのがモンゴル人メンバーも加わりみんなで一緒にダンスを練習しました。

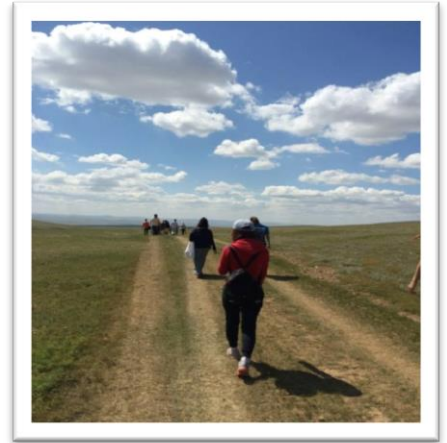
草原に来て3日目。どんどん日本人とモンゴル人メンバーの距離が近くなってきたと実感できてとても嬉しかったです。



Ex.4日目 8月13日

田中 啓太

いつも通り、朝10時に起床。今日のイベントは、ツーリストキャンプでシャワーをするという大きなイベントがありました。皆で、草原を30分ぐらい歩いてシャワーを浴びに行きました。シャワーはちゃんとお湯が出て、シャンプーを持って行って本当によかった。気持ちよかった。風呂上がりのアイスとコーラもおいしかった。アイスは乳製品だったので、少し苦手だったけど。そして、また30分歩いてゲルに戻った。



ゲルに戻ると、遊牧民の子供たちがいた。お兄ちゃんと、妹と、弟の3人で来ていた。最初は、一緒にシャボン玉をして可愛くなって思っていた。お兄ちゃん=しっかり者、妹=自由、弟=やんちゃだった。写真を撮っていたやんちゃな弟も、お兄ちゃんの言うことをしっかり聞いて、しほさんとまっきーさんと写真を撮った。子供たちに癒された。

次に、2回目の馬乳酒を飲みました。モンゴル人メンバーにじゃんけんで負けたら飲むというかたちで。きむたつとフェイスさんは5杯ぐらい飲み、みーくんは1杯で限界だった。僕も3杯ぐらい飲んだ。馬乳酒は飲めないことはないけど、おいしくはない。すいません。

そして、夜にはしほさんとまっきーさんのフェアエルをした。ウオッカを飲んだ後に自分の好きな歌を歌うというものだった。本当に飲んで歌うのは世界共通だなと、僕はシャイだなと、思った。

そんな夜でした。

あと、草原で寝たら風邪ひくかもです。





織田 安奈

朝起きて、いつもと同じように、用意されたソーセージと目玉焼きを青空の下で食べる。それから歯を磨いて顔を洗う。何ともすがすがしい気分になる。これが草原での一日の始まりである。二日目には岩山観光を兼ねたピクニック、三日目には乗馬体験と、日に日に目ぼしいイベントが終わっていくのを早くも名残惜しく感じるわけだが、この日のイベントは待ちわびたシャワーだった。

私たちは朝のお決まりの一連の活動を済ませてから、全員で列を成してツーリストキャンプまで歩いた。距離は片道 2 km といったところだろうか。到着するとさっそく順番にシャワーを浴びるわけだが、私の順番は最後で、途中からお湯が出なくなり、凍えながら真水のシャワーを浴びることになった。後からわかったことだが、ちょうど私が使っている間に溜めてあったお湯がなくなってしまったらしい。普段私たちは蛇口をひねればお湯が出ることを当たり前に思っている。しかし、ここでは違う。大げさかもしれないが、普段日本で何不自由ない生活を送れていることを感謝せずにはいられなかった。

ツーリストキャンプからの帰り道は実に楽しいものとなった。モンゴル人メンバーのうち、ある女の子と K-POP が好きという共通の趣味があることを発見し、私たちは大いに盛り上がった。そして二人で腕を組んで、同じ曲を聴きながら歩いた。私は最近流行っている韓国の音楽や洋楽について一通りは知っていたが、それは、初対面の人と上手く話を広げられない私にとって、一貫して大きな助けとなった。

私たちが滞在するゲルに戻ってからは、皆で昼食を取り、その後はまたいつもと同じ午後の時間を迎える。私はこの時間をまず読書に充てるようにしていた。他の学生たちと積極的に交流しようとする姿勢はもちろん大切だが、有り余る時間を何の制約も受けずに自分のために使えるのもモンゴル Ex. の醍醐味だと言えるだろう。普段日本で授業やバイト、支部の仕事に追われ、ゆっくりと読書をする時間のない私にとって、この時間は至福以外の何者でもなかった。

私が読んだのは村上春樹の『国境の南、太陽の西』という本だ。この本の感想については、ここで扱うべき範囲を超えるものであるから、それには触れないでおくが、私はこの本を読んだことで自分について考えることが増えた。モンゴルの大草原を目の前にして悩み事をするのはとても不思議な感覚だ。大草原を目の前にすると自分の悩みなんてちっぽけなものに思えるような気がする一方で、自分の悩みは大草原が地平線の向こうまで続いているのと同じように際限なく広がっているような気もするのだ。そして、それらは相反する二つの事実とか矛盾とかではなく、両者がそれぞれ正しいのである。読書の時間を終え、バレーボールやたこあげなどを友達と楽しんだ後はいよいよ夕食だ。具だくさんのスープが冷えていく私たちの体を温める。ウォッカを飲んで歌を歌って、とりとめのない話をして、今日也大草原の一日を終えるのであった。

Ex. 5日目 8月14日

関本 望

本日もゲルにて起床。昨日から寝袋が一人一つになり快適な睡眠を得た。ついでに男三人で寝袋二つにぎゅうぎゅうで入って震えながら寝ていたおかげで森本、木村との不思議な絆も昨日までに得ていた。今だからこそ笑える話となっているだけだが。ほんとにモンゴルの夜は寒い。

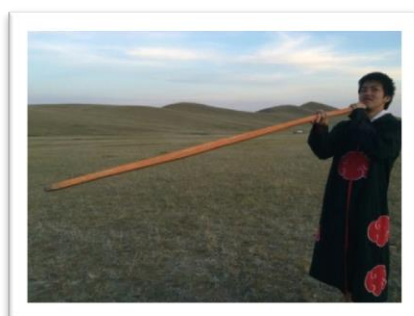
本日もパンにジャムにウィンナー卵に紅茶、ジャムティーをすることにより優雅な朝食となっていた。納豆が少し恋しい。いや、結構恋しい。

しばらくして乗馬をする。一人のモンゴル人と一人の日本人で、前回よりのんびりと乗ることが出来てとても楽しかった。いつまでもどこまでも進んでいけるような馬の乗り心地と草原の道、つくづく異郷の地なのだと感じて、また改めて感動を覚えることとなった。風の音だけする草原に、ただただ馬の蹄が鳴らすリズムミカルな音が心地良かった。

そんないい感じに浸ったあとは日本人でショートムービーづくりを行っていたのだが、フェイスさんが15人目のモンゴルメンバーわんこす（草原で渡り歩いている犬）におしっこをかけられていて爆笑してしまう。これはしょうがない。皆の中で一番身長高かったいい感じの電柱に見えてしまったのではないだろうか。

夕方からは草原でギターを弾く、このためにモンゴルに来た自分としては、いつまでもこうやって過ごしていけるのではないかと感じる。自分の弾いたギターが自分一人だけの為でなく、一緒に歌ってくれる人がいるという楽しさもここに来なければ知ることはできなかったと思う。ここを離れたらこんなに開放的な気持ちでギターを弾けることがないのでないかと思うと、ずっとこのまま過ごしたいと思うときもあった。

その日の御飯のあとはモンゴル人がクラブミュージックを流す中ウォッカをひたすら飲む。しばらく飲んで踊った後は、Faceさんともりんあやこすあんちゃんと話す。酔った勢いもあってか自分が好き嫌いが激しい人間であると説明したことにより自分の性格がばれる。それでも仲良くしてくれてるみんなが素晴らしい人たちだと感じた時間だった。



田井 菜々子

この日は4時半に起きて、モンゴルで一度は見たかった朝日を見に行きました。寝起きの体での山登りはなかなか辛くて、遠く感じたけど、頂上に着いたときの達成感！空気が澄んでいてすごく気持ちがいい。

日が昇るまでなかなか待ったけど、空が徐々に赤く染まっていく感じがたまりませんでした。生まれてはじめて早起きしてちゃんと朝日が昇る瞬間を見られた気がします。

もちろんゲルに戻って二度寝です。

そして今日は過去の Ex.参加者で短い間でしたが一緒に過ごすことが出来た裕子さんと志帆さんがウランバートルに帰る日でした。二人とも気さくに話しかけてくださって、すごく温かくて良い人で、みんなに愛されていました。私たちと同じようにモンゴル Ex.に参加して、社会人になってもう一度会いにくるなんて素敵すぎる！二人とのさよならはみんなに惜しまれながらのウルルンみたいな感動的な別れでした。

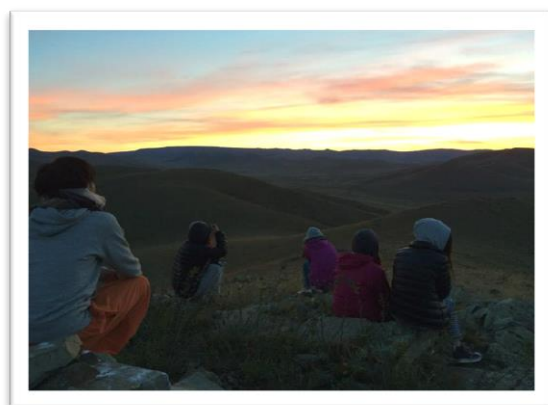
その後、外は暑いからとゲルの中でモンゴル人を含めて UNO 大会が始まりました。罰ゲームはデコピンです。モンゴルのクツルというゲームもしました。チーム対抗のゲームで4回負ければ、負けたチームがロバになって勝ったチームをおんぶしてゲルを三周するというよくわからないゲームです。チーム対抗だけにルールがなかなか分からない私は怒られっぱなし！結局私たちのチームは逆転勝利でロバに乗ることが出来ました。無邪気に喜んでロバ（人間）に乗るモンゴル人は可愛らしかったです。気づけば3時間の戦いでした。

昼からは馬に乗せてもらいました。山の方まで連れて行ってもらいました。乗馬って優雅に見えるけど、実際やってみると腰やお尻を使うし、結構しんどいものなのですね。一緒に行ったモンゴル人と乗馬の話や遊牧民の話から恋愛や結婚の話まで…楽しい時間でした。

ゲルでモンゴルの女の子と絵しりとりをしたり、ダンスしたり、写真大会をしているといつの間にか日が暮れて、一日が終わりました。

モンゴル人は私たち以上に日本の曲を知っていて、好きで、夜はゲルで日本の歌を歌ったり、外でダンスをしたりして、愉快地過ごしました。

5日目の夜。だけどモンゴルの星空は何回見ても飽きません。これから先これ以上綺麗な星空は見られない気がする。



Ex. 6日目 8月15日

森本 悠紀

1日掛けでのチーム対抗戦？的なことをすることになった日。

自分のチームは、西端・柳瀬・じゅんくん・まんだ・てれ（風邪）というゆるめなチームでした。

わりとこういうイベントは苦手なので、朝から憂鬱でした実は。

対抗戦のコンテンツは、自己紹介・文化紹介・フリー・劇・クイズの5つで、ほんとに憂鬱さ爆発でしたまじで。

そもそもチーム名決めるところから、わりともやっとした感じで、飯のノリで「ぼござがす（鰻）」になりました。文化紹介も「ま、歌でいいっしょ」的な感じで **kiroro** に決まりました。まあここまでは良かったです。

このあとの劇から様子がおかしくなりました。お題が「流れ星」っていう時点でそもそもおかしい。

ちーむ鰻は、モンゴルの昔話をアレンジすることになったのは良いんですが、配役決めるかーってなって、ナチュラルに女装が決まりました。気がついたら工事が始まってて、終わった時にはモンスターが誕生してました。パッと見、日本エレキテル連合に見えるという一言で、ネタが加わりました。モリモトは腹を括ることにしました。

その後、フリー決めてない！ということになって、一発芸を詰め合わせることになりました。

セーラー服をきて、工事を施したモリモトは何も怖くありませんでした。

こんな感じで本番を迎えて、劇とフリーでは部門トップをとりました。総合2位でチョコももらったよ。

対抗戦の内容は、誰かがムービーを撮ってたので、詳しくは **Web** で。

大事な物をたくさん投げ捨てた1日でした。おしまい。



佐々木 唯衣

9:00 起床。朝ご飯はパン、目玉焼き、ウィンナー、きゅうり、ナン、紅茶。定番化したメニューだけどピザソースやクリームチーズ、ジャムなどあるため全く飽きない安定の美味しさ♡実は日本人メンバーはこの日が草原最終日だと思っていたため、写真やロードムービーを撮って思い出を形に！！（笑）のちのち、もう 1 日あることを知ってみんなのテンションが、、（ ° 旦 ° ）みんなお風呂入りたくてしょーがない今日この頃。

チーム対抗ゲームをするためにチーム分け。私のチームはキムタツさん、ジョップさん、ちなみん、ウヌシカ、てっぺいさん。チーム名はキムタツさんがリーダーだから「あご海賊団」。いいネーミングセンス♡（笑）一旦、昼ご飯を挟む。メニューはミートパスタ（もちろん味は薄め）。それから審査員のジャギーさんとツォゴが来るまで、チームごとに練習。内容はチーム紹介・文化紹介・「流れ星」がテーマの寸劇・フリータイムというなかなかハードなもの。各チームが試行錯誤し練習して、、あっという間に発表の時間に。どのチームも面白かった♪♪ジュンくんチームの寸劇の完成度やばい！！笑いすぎてお腹痛かった（笑）

全部のテーマが終了し結果発表のとき。正直なところ下から 2 番目ぐらいかと思っていたあご海賊団がまさかの優勝☆ やったね☆～（ゝ。θ）景品に高級？チョコレート頂きました♡めっちゃ甘くて美味しかった！！そうしてる内に、すっかり暗くなって夜ご飯。この日のメニューはラーメンっぽいもの。美味しかった♪♪ご飯終わって、喋っていると大量の紙コップを並べ出したモンゴル人。これはもしや、、Σ(° 旦 °)予想は的中。とうとう現れました。テキーラさん。全員で乾杯～、、これはあかーん！ってなった（笑）そのまま、毎晩恒例のキャンプファイヤー。みんなで語る♪そして、潰れたあんちゃんを介護！（笑）就寝。



Ex. 7日目 8月16日

木村 竜也

今日で都市部へ帰れると思っていたら、もう一日あったでござる。そんな低いテンションからスタート。結局朝日は見れず。なんでも今日はガチ遊牧民の生活を見られるという。しかし、ほんとに見るだけであった。

ゲルに入り、2〜30分ほど話を聞く。やれ男と女が。やれモンゴルの子供は。あとはこれはこんな道具だ、こんな意味があるんだ、みたいな。ふと、ぐると見渡す。みんな、疲れてるね…。その時だ。入口から鳴き声が聞こえた。にやややややあ！！猫だった。

奴が現れてから、みんなの顔に笑顔が戻る。日本人らしくあちこちで写メを撮る音が聞こえる。これがアニマルセラピーってやつか…。おいたんも癒された



以上、今日の予定終了！
(笑)

あとは、ここにきて初のモンゴル伝統料理。羊、人参、じゃがいもを鍋に入れ遠赤外線効果でくたくたに火を通すだけの簡単レシピ。死ぬほどうまい！塩をつけてもうまい！ただ、ちと食いすぎたぜ。からの夕食。おかわりはできなかった。

最後の夜ということでみんなで空を見上げる。一番きれいな夜空だった。俺の選曲が絶妙すぎてはーちゃんが泣きかける。(ドヤァ) 西端がわざわざ持ってきてくれた蠟燭でキャンドルナイト。からのサプライズバースデー。8・9月生まれの4人おめでとう。

最後、モンゴル式の楽しみ方も満喫して各自、ゲルへと帰っていった。



登森 知奈美

10時半頃起床。草原ではおなじみとなった朝ご飯を頂いて、昼食で使うという石を拾いに出かけた。草原で過ごす最後の日、今日は特別な料理をご馳走してくれるらしい。石を拾う場所は少し水があると聞いていたけれど、草原に川などあるわけもなく、牛の飲み水をくみ上げる井戸があるところだった。基準はいまいちわからなかったけれど、鉄平さんに採用される石を集めた。ゲルに戻って少し休憩。ゲルの中は日中でもゲルの下側をめくると風通しがよく、とても快適に過ごせた。少し休憩した後、少し離れた隣の遊牧民のゲルにお邪魔させてもらった。人が来た時には必ず馬乳酒をご馳走するらしく、みんなで頂いた。遊牧民は家畜のえさを求めて、春夏秋冬で四度移動すること、移動する時、現代は車を使って家財道具を運ぶこと、家畜をたくさん持っている遊牧民は裕福なこと、遊牧民の母親は日が昇る前に起きて馬の乳を搾り生クリームを作って、朝ご飯の準備をすること。単純だと思っていた遊牧民の生活は知らなかったことばかりで、意外と複雑な生活を送っていることが分かった。また、最近のモンゴルの人々は遊牧民の生活から離れて居るため優しさ、助け合いが薄れているらしい。遊牧民の生活をたくさん知ることができ、とても興味深かった。ゲルの中には馬乳酒のにおいが強く、長くはいられなかったけれど。自分たちのゲルに戻ってまた休憩。お昼ご飯はなんとカツカレー。そろそろ、日本のご飯を食べたいと思っていた頃、日本の味にそっくりでとても美味しかった。少しして石を使って調理した羊の肉、ニンジン、ポテトをご馳走してくれた。苦手だと思っていた羊肉も臭みがあまりなく、さっきお昼を食べたばかりなのに夜ご飯も待っているのについて食べ過ぎてしまった。ハレ晴れユカイを踊った。少しムービーが暗かったのは残念だけれど。10時半頃に夜ご飯を食べた。今日はマンダさんが作ってくれた少し辛目のスープ。ご飯をいれて頂いた。夜はたき火を囲んで、草原最後の夜を楽しんだ。今までで一番星が綺麗に見えた。今日は明日からのホームステイを楽しみにしてはやめに就寝した。



Ex.8日目 8月17日

柳瀬 梨央

・草原

昨晩は日本人メンバーはフェイスさんジョップさんみーくんさんのぞみさんゆうさん、モンゴル人メンバーはツォゴ、ボマ、オノさん、オノさんフレンド、仁くんと、キャンプファイヤーを囲みながら 3 時くらいまで日本から持ってきたソフトイカやわたばちをおつまみにしながらお酒を飲んでいました。

そのあとゲルに戻ってみんなでくだらない話をして寝ました。

朝は鉄平のモーニングコールでみんな起きました。

最後の朝ごはん。

こうやって草原にシートを引いて朝食をみんなで食べることもないんだろうなと思うと寂しい気持ちでいっぱいになりました。

朝ごはんを食べた後はゲルの掃除やゴミ拾いをして、モンゴル人メンバーと日本人メンバーで鉄平が写真を撮ってくれました。

バスに乗る前はコックさんをしてくれていたおしんのママとかと写真を撮ってお別れしました。帰りのバスはがったがたに揺れるバスの中輪になってモンゴルのゲームをしながら帰りました。行きのバスは道路に牛がいたりするといちいち驚いてましたが、数日草原で過ごすとながら牛が歩いていることが当たり前になって私もモンゴルに馴染んできたんだと感じました。

・ウランバートル市内

みんなと解散しホームステイ先のまりちゃん家まではタクシーで行きました。モンゴルのタクシーは日本のようなタクシー会社はほとんどなく基本的には一般車で乗せてってもらってお金を払うという感じでした。まりちゃんの家はまりちゃんと両親の 3 人暮らしで近くにお兄さん夫婦が住んでいるようでした。今日は両親とも不在だったため、シャワーを浴びさしてもらいました。スッキリしたあと、NOMIN という大きなデパートに行きました。そこのスーパー商品の多くはロシアのもので韓国や日本の品物も置いてありました。

ウランバートルの街は店が地階にあったりと、アジアっぽくない街並みが広がってる一方で、建築中のビルや建物を沢山見かけると発展途上国なんだなと感じました。

買い物後、潤君宅にお邪魔しました。そして、潤くんの福岡の高校に留学していた話とか写真とかムービーを見たり聞いたりして過ごしました。

高校 3 年生のクラスにいらしく、潤くんに文系理系どちらのクラスにいたのか聞くために和蒙辞典で調べてみると理系はのっているのに文系はのっていませんでした。文系はどんどん淘汰されていくんだなと感じました。

その後、潤くんとまりちゃんの友達のとく(勝手に日本名をみんなで付けました。)で日本のコールとかを教えながらウォッカやらビールを飲んで過ごしました。



織田 安奈

この日は私たちが草原を旅立つ日だった。振り返ってみれば、そのときの私はその場所を離れるということが一体どういうことであるのか、何も分かっていなかったような気がする。そのときの私は草原での生活に飽きを感じていて、早くウランバートルに行ってしまいたいとさえ思っていた。しかし、帰国してから10日が経った今、私がいかにあの場所を愛おしく思っていたのかが分かった。今草原のことを思い出すと、やりきれないくらいの切なさに襲われる。私は何をするでもなく一人で大草原を眺めるのが好きだった。それは私を思考というしがらみから解放してくれた。遠くの山で牛たちが草を食べながら移動するのを見ると心が躍った。満天の星空を見ると胸がいっぱいになった。しかし、皮肉なもので、近くにあるとその有難味は見えなくなってしまうのだ。そのときの私も大して感慨深さを覚えることなく、写真撮影やバスへの乗車を機械的に済ませた。

バスがウランバートル市内に到着し、メンバーたちに東の間の別れを済ませてから、私は日本人メンバーの先輩とともに、ステイ先のモンゴル人学生の家へと向かった。その家族は私たちをととても暖かく迎え入れてくれた。食べきれないくらいの盛大な御馳走で私たちをもてなしてくれて、緊張していた私も自然とリラックスすることができた。それから私たちがやった一連の行動はどれも特筆に値するものではないが、ざっと記しておくとして3日ぶりのシャワーを浴び、近くの小さな売店でアイスクリームを買い、夕食を取り、遊びに来たモンゴル人学生のいとこと皆でゲームをしたといった具合である。

ステイ先のモンゴル人学生は日本語を勉強し始めたばかりだということだが、非常に勉強熱心で、分からない言葉があれば、すぐに私たちに聞いたり、辞書で調べたりする。彼女は私たちと日本語で話すことをとても楽しんでくれており、このような学生が将来日本とモンゴルの懸け橋になってくれればと思った。



Ex.9日目 8月18日

山内 遼太

じょっぷがずっと横で「ケンチャヨ…ケンチャヨ…」と寝言をぼやく午前2時。どうもてれです。

今朝は12時間寝ました。途中で三回くらい目が覚めて、暇で死ぬかと思いました。

ステイ先のキリトくん、一回も起きず。すごーなおい。寝坊助かい。

どうやら今はどの学校も夏休みみたいですわねー。モンゴルの学校は冬休みと春休みがなくって、夏休みが三ヶ月もあるそうですよ？僕が小学生なら飛び上がって天井ぶち破るほど喜んでいただいでしょうが、今となっては「何をぬかしとんねんあほかいな」と思うばかりです。暇。寂しい。勉強するつもりがだらけちゃう。そんなもんです。キリトくんの自主勉ノートも5月の6日で止まってました、はい。キリトくんオンゲーばっかしちゃだめよ。それからアニメもほどほどにしなきゃだめよ。一緒にSAO二期見れたのはいい思い出だけどね。まあ僕一期見てないんだけどね。でもありがとうね。

そんなこんなでお出かけをしたのはお昼からでした。今日はお土産の買い直しです。ノミンデパートっていうモンゴル1のデパートがあるんですが、そこには手作りのモンゴル土産がたくさんあります。他にもフードコートや家電売り場等色々あるんですが、ゆっくり見ている暇はなかったのもまた1人でも来たいと思います。

そのあとはキリトくんとじょっぷと僕の三人で昼間からビールを一杯外で引っかけました。背徳感ヤバイね。最高だね。モンゴルで有名なチングスビールは口当たりが優しくて飲みやすい。だけどちょっぴり苦い後味が残る、面白いビールなんです。ぜひご賞味あれ。そして夜にはウランバートルを一望できる観光スポットへ！このときにはオユカとは一ちゃん、おだんなも一緒に、ゆるゆる楽しく会話をしながら行きました。そこは日本で例えるなら神戸の摩耶山！絶好の夜景！遠くの方は光化学スモッグの陽炎がゆらゆら揺れていて、人間が作り出す景色も結構綺麗なものなんだと感動しました。そうして帰ったのは日付が変わった12時過ぎ。みんなで高校時代の放課後のような甘酸っぱい青春話を、ウランバートル1広い公園のベンチで語り合ったのはいい思い出になりました。

今は、明日のフェアウェルパーティーに向けてのとあるものを準備しています…ではみなさんおやすみなさい〜



田井 菜々子

この日は朝からお父さんに連れられて、ガンダン寺に行きました。人よりも多い鳩で埋め尽くされているほんとに鳥肌が立つ路を通して、お寺の中に入りました。中には大きな観音像が立っていて、その周りの回路をミニ車を回しながらお祈りしました。ここはパワースポットみたいで観光客や地元の人たちでいっぱいでした。

昼からは遊園地へ。日本の一昔前の遊園地みたいな雰囲気でしたが、きっとモンゴルのカップルたちはここにデートに来るんだろなぁ…と思いながら楽しみました。小さい頃を思い出して、なんだか懐かしい気持ちになりました。

そのあとは歴史博物館へ。モンゴルの民族の伝統衣装やアクセサリなどが展示されていました。

その後はみんなでラウンジでカフェから晩ご飯までだらだらと。注文するのに苦戦。言葉の壁は難しいです。こうやってゆっくり話せる時間がずっとあるようで無かったので楽しい時間でした。

そしてライトアップされた国会議事堂へ行きました。お昼とは違った美しさで魅力的でした。スプーバートル広場を三人乗りの自転車で爆走しました。二人乗りの自転車で夜のデートを楽しんでいるカップルの横を叫びながら爆走して…

きっと大迷惑だっただろうな。

その後はみんな飲みに行ったけど、私はお父さんの車で帰宅。晩ご飯のお粥さんを食べながら、家族のアルバムを見せてもらいました。関西に来たことがあるみたいで、その時の写真がたくさん！ 私も訪れたことがある場所ばかりで、言葉はあまり通じないけど話が盛り上がった気がします。自分の家だと思ってゆっくりしていいよ、と言ってきて、本当の家族のように温かくてほっこりする時間で、ここにホームステイに来られて良かったなと思えた幸せな時間でした。



Ex.10日目 8月19日

関本 望

前日モンゴル人とお酒を飲んでいたので、その会場である家に泊めてもらい起床。みんな帰るのが面倒だったのか床に転がるように寝ていた。この光景は万国共通なのかと少し可笑しくなってしまった。

なんだかんだ最終日なのだが、何かと実感がわからない。悲しいやら、日本が恋しいやら不思議な気持ちに包まれているのは、おそらく長いサバイバルに近い草原生活のせいだろう。普段の生活がいかに恵まれているか、それに比べたら Wi-Fi の有無なんてどうでもいい事だった。そんなことが分かるくらい一面もあることだけに書いて覚えておきたい。とても貴重な経験だったため、ここにきて本当によかったと思っている。

そこから昨日遅くまで起きていたため、ホスト先のドルゲンの家でのんびりする。自分の家と思わないと怒ると言うほどの本当にやさしい奴、本当に家みたいに思っただけすぎたり散らかしたりしたのは本当に申し訳ない。

マーケットのお土産屋で日本の芸人と写真を撮ったことはおいといて、夕方からモンゴルの民族音楽、舞踊の公演を見た。馬頭琴を初めとした魅力的な楽器が多く、とても感激していたし、口から二つの音を同時に出すホーミーにはもはや感動を覚えた。ダンスはよく分からなかったが。

最後はフェアウェルパーティーのカラオケだったが、今年は日本で友達と行くような普通のカラオケとなった。例年のごとく盛り上げるべきかと思ったが、ノりたい人がノリ、単に歌いたい人は歌う、その感じで私は楽しかった。その気持ちを持つ人が私を含め存在するだけで十分じゃないだろうか。そんな感じで大きな盛り上がりではなかったが、仲良くなったモンゴル人にはまた会おうと、その場の感激の波にのまれた大げさな別れじゃない今回の別れは大好きだった。嘘っぽくないから。

日本で DJ するのが夢なファンキー野郎や日本に留学するから遊びに来てくれと言われてたり、本当にいい人が多かった。モンゴル行く前は、正直日本人らと仲良くやればいいのかと思ってたけど、やっぱり日本人も外国人も関係なく仲良くなりたいたい人と仲良くすれば良いと、国は関係ないと改めて知った。もう一度、いつになるか分からないがその人らに会いにモンゴルに来たいと思う。

良いことも悪い事も含め、中身の濃い十日間、最高だと胸を張って言えるものとなった。



簾淵 絢子

この日はモンゴルE x 最終日。モンゴルでは定期的にお風呂が止まるらしく、シャワーを浴びることはできなかったが、朝食があまりにもおいしくて、お風呂にたいする不安は消え去っていった。この日の朝食は韓国風の巻きずし（キンパというらしい）で日本の味に似ていた。それから用意をして日本のお土産をわたす。喜んでもらえたようでよかった。

12時に家を出てウヌシカの家によって、お土産を買うためデパートへ行く。その途中でタクシーが車とぶつかったりと様々なハプニングがあったため、予定より一時間半遅れでデパートに到着。お土産を買っている時に日本の芸人さんと遭遇したのにはびっくりした。買い物を終えたあとは4時から民族舞踊の舞台鑑賞。歌や楽器演奏にも惹かれたが、なによりも印象に残ったのはアクロバティックで、女の人の体の柔らかさにとても驚いた。民族舞踊の舞台といえば、もっと古風なものだとおもっていたが、現代的なものも混ざっていて、いっそう興味がそそられた。また前日に博物館で見た髪飾りや衣装を実際に見ることができたので見ていておもしろかった。そのあとはみんなでカラオケへ。また明日もみんなと会える気がして、フェアウェルパーティーという感じではなかったが、いざ終わってみると、もう明日会わない人がほとんどで、寂して別れが名残惜しかった。家に帰るとビンバのおばさんがモンゴルの家庭料理を作ってくれていた。食べたあとはゆっくりお喋りをしたり、たくさん写真を撮ったりして、ホームステイ最後にふさわしい夜だったような気がする。言葉は上手く通じなくても、楽しい時間をすごすことができて嬉しかった。本当に温かい家族で、「次にモンゴルに来たときもこの家に泊まりにおいで」といつてくれたとき、この家にステイすることができてよかった、と心から思った。

あっという間に過ぎてしまった10日間。大変なこともあったけど、今までで一番充実していた日々のように思いました！モンゴルE x.に参加してよかった！



フリーテーマエッセイ



登森知奈美

自分の考え方が変わる何かきっかけになれば、モンゴルに何があるのか知りたい。そう思ったのがモンゴル Ex.に参加しようと思ったきっかけでした。過去のモンゴル Ex.参加者達は何を感じて何を思ったのか、何に感動したのか。モンゴル Ex.に参加し直接知りたいと思いました。実際、モンゴルを訪れて、感じたのはモンゴルの大自然、自由、強さでした。初めて草原を訪れた日、あまりの何も無さに一週間過ごせるのだろうかと思ったのは一瞬で、自分のしたいことをして自由に時間を気にせず過ごす日々は、決して快適とは言えない環境の中、日常の生活を忘れ、多くのことを考えることができた時間でした。みんなで遊んだり歌ったり、一人ひとり思い思いの時間を過ごした草原での生活は、たくさんの思い出です。草原を離れる最後の夜、今まで見たことのないほどの多くの星が輝く空を見たとき、モンゴルにきてよかったと心から感じました。

また、今回の Ex.を通して、国際交流は難しいと感じることもできました。人それぞれ、性格や価値観が違うのはもちろん、国籍が違うのだから考え方で多くのことが違うのは当然と、わかっていたつもりでいたけれど、相手を理解することはやっぱり難しいと改めて感じました。

モンゴルで過ごした日々は新しいこと、知らないこと、新鮮なことばかりで毎日とても楽しく過ごすことができました。Ex.参加者すべての人のおかげです。また、何よりこのメンバーと一緒にモンゴル Ex.に参加できてよかったです。本当にありがとうございました。





森本 悠生

自分は、今回の **Ex.** は目標という目標を特に決めずに臨んだため、少しダレてしまったように感じた。草原でしたいことを事前に考えていたが、遊びが中心だったこともその要因だったと思う。**Ex.** に参加する人は色々な目的がある人が大半だと思うが、モンゴル **Ex.** では他の **Ex.** に比べて自由な時間がとても多いので、しっかりと目的を持って臨めば、充実したプログラムになると感じた。

佐々木 唯衣

私はモンゴル **Ex.** に参加するにあたって、帰国したときに「もっと、～したらよかった！」とか「もっと、モンゴル人と喋ればよかった！」などの後悔のないようにする。という目標を持って行きました。初めは、なかなか自分からモンゴル人と交流しに行ったり出来なかったけど、日本から持って行ったトランプで遊んだり、折り紙を一緒に作ったりしていくうちに次第に打ち解けていけたように思います。また、どれだけ騒いでも迷惑をかけないということで、草原でリコーダーを吹いたりだとか、ギターに合わせて歌を歌ったりだとか、ダンスを踊ったりだとか、日本では恥ずかしくて出来ないことも思う存分に出来て毎日が充実していました。トイレやお風呂がないという環境で生活するのも、最初は抵抗があったものの滅多に出来ない経験なので貴重な時間が過ごせました。モンゴル **Ex.** に参加して良かったなと思います。





モンゴル Ex.をそこそこ楽しめたけどそこまで楽しめなかった人のフリーエッセイ

二宮 奨

モンゴル Ex.どうでしたか？

これを聞かれる度にどう返そうか僕は悩んでしまいます。というのもタイトルの通り僕は残念ながらモンゴル Ex.をそこまで楽しむことが出来なかったからです。建前のような書き方をすべきなのかなと考えたのですが、やっぱり正直に書いていいだろうと思い、正直に書かせて頂きます。

モンゴルで楽しかったことはやはり草原生活です。草原は見ていてとても良かったですし、お酒を飲んでキャンプファイヤーはとても楽しかったいい思い出です。そして話す機会の無かった日本人参加者と話す機会も多くなり、とても仲良くなりました。

楽しくなかったことは全体的にモンゴル人が下心でプログラムに参加していることが多いことです。書き始めると内容がそぐわないと思うので書きません。2,3年前くらいからモンゴル Ex.がそういう風潮になってきたらしいのですが、個人的には残念です。また日本語を勉強する学生のモチベーションが過去に比べて皆低いんじゃないかと思います。それと景色がきれい聞いていたのですが、僕はそこまで、と思ってしまいました。過去に参加していた人から、星空を見ていたら自分の悩みは何て小さいんだと思えるくらい良かったと聞いていたのですが、予想以上に星は普通だったことに逆に驚きました。

しかし何回も言う通り楽しい部分もありましたし、日本人とは本当にいい思い出を作ることが出来たと思うので、行って良かったと思います。皆さんどうもありがとうございました。





田井 菜々子

私がモンゴルに行く前に決めた向こうでやりたいことは、時間を気にせずに、自然に身を任せて生活すること、感性を豊かにすることでした。というのも、日本で日常生活を送っているといつも時間に追われて、色々なものに置いていかれないように必死に生活している気がします。そんな生活から少し離れて生活したいと思ったのがモンゴル Ex.に参加した理由でもありました。

モンゴルでの草原生活は何も考えずに行くと本当に暇な時間になると聞いていました。だけど私にとってはその暇な時間を過ごすことがとても貴重な体験でした。いつもなら気がつかずにそのまま過ごしていたであろう小さな感動に気づくことが出来たり、人の優しさに触れることが出来たり、自然とともに生きている！と実感することが出来たりしました。日が昇って起きて、日が沈んで寝て...太陽の光を浴びながらぼーっと時を過ごして、ただただずっとプラネタリウムのような星空に見とれて眺めて、ここまで自然を感じ、自然とともに生きていると感じたのは初めてです。私がモンゴルでやりたかったことはこういうことだったのです。

日本に帰って、空を眺めることが多くなった気がします。日々の何気ない生活が当たり前じゃなくて、日々の生活に感謝しないと、そう思うようになりました





フリーエッセイ

「モンゴルの現在、そして未来」

織田 安奈

私は大学で中国史を専攻しており、中国 4000 年の歴史を一貫して中国と強い関わりを持ち続けてきたモンゴルの歴史についても勉強してきた。中国史を専攻する学生の中でも、私は特に中国とモンゴルの関係史に興味があり、自分で研究テーマを設定する授業で史上初めてモンゴルに帝国を築いた「匈奴」について研究をしたことがあるくらいだ。それだから、今回モンゴル Ex.への参加を決めた最大の動機も、実際のモンゴルを自分の目で見ること、自分の頭の中にあるモンゴルをビジュアライズできるだろうと考えたことだった。

そして、本物のモンゴルは素晴らしかった。そこにはひたすら緑色の草原と青い空が広がっていて、その二者を地平線が隔てる。雲は驚くほどに立体的でくっきりとしている。私はその雲をいつまでも飽きずに見続けたものだった。それから遠くの山を牛の群れが草を食べながらゆっくりと歩いていく景色といったら、それはもう圧巻だった。きっと何千年前にもここには同じ草原と同じ空が広がっていたのかと思うと、込み上げる感動を抑えることができず、おもわず涙してしまった。

私はこのようにモンゴルの空気をしっかりと身に染み込ませたわけだが、それ以上に現在のモンゴルについて多くのことを学んだ。そして、モンゴルが将来どのように変わっていくのかということにとっても興味を持った。モンゴルは草原を保護し、現在も遊牧生活続ける者たちに支援も行っているようだが、その一方で都心部は確実に発展の中にあった。自然豊かな土地に高層ビルが多く建設されることは、しばし否定的に語られたり、嘆かれたりするが、ウランバートルのそれはとても素敵なものだった。小高い丘にカラフルな住宅やゲルが建てられているのなんかはポストカードのように美しかった。住宅地の密集する郊外ではまだ水道や下水といった設備が完備されていないようだったが、きっと近い将来、日本と同じような生活が営まれるのだろう。そのときのモンゴルはどうなっているだろうか、モンゴル人メンバーたちはどうしているだろうか。

私はこれまで自分の専攻柄、モンゴルについては過去について考えることが圧倒的に多く、現在の生活や未来の有様についてはほとんど考えてみたことがなかった。しかし、今回のモンゴル Ex.はそういった類のことをぼんやりとだが、考える機会を与えてくれた。そして、それは私に未来のモンゴルに対する期待を植え付け、良い余韻を残すことになった。自分はいつかまたあの場所に戻るのだろうと、そう思える余韻だった。





関本望

私がモンゴルに行ってしたいこと、それは草原でギターをめいっぱいかき鳴らし、そして周りを気にせず大声で歌うこと。ただそれだけだった。

日本では大きな音で自由にギターを弾いて歌えるところ、それはスタジオかライブハウスしかない。外で弾くなんて騒音だと言われ煙たがられるだけなのだ。そんなことを気にせず空に向かって歌ってやりたかった。そのためにギター背負ってわざわざ外国を歩いたようなものだ。中学のころから変わらない音楽楽しい！というガキの気持ちを背負ったままモンゴルの地に足を踏み入れた。

そしてやってきた草原。もちろんひたすらギターを弾いて7日間過ごすつもりもないのでそれ以外でもすべて楽しんだ。せっかく来たなら全て楽しんでやろうという気持ちは遠出する時にいつも持つ目標だ。鬼ごっこに縄跳び、トランプなどのカードゲーム。山登り・・・高校生飛び越して小中学生にまでさかのぼってしまいました。いや、それでもすべて楽しんでやろうという気持ちは変わりません。楽しみました。

話しは逸れましたが、とりあえずこれからしたいことについての結果を書かせていただきます。

結果、私は昼間快適な陽気の中ギターを弾き、歌いました。夜は星空を見て気が向いたらギターを弾きその時の気持ちに合わせ様々な曲を歌いました。本当に気持ちが良くて、気持ちが良くて。人それぞれなのでしょうが。今回も駆られたため、本当に気持ちが良かったのでしょうか。そして今回それに加えて分かったことが一つあります。それは自分が弾いているギターに合わせて、人が歌ってくれることの幸せです。自分一人で弾き語るのも本当に楽しいのですが、歌ってくれることはまた違ったベクトルの楽しさがあります。幸せを含んでいました。

私は遠出することにおいて窮屈さをなくすため、多くは求めないようにしています。ただ一つ、自分が新しいことを発見できればそれだけで大成功だと思っているんです。今回私の新しい発見、それは自分が発信したことに対して人が応えてくれる。それがいかに幸せなことが分かったこと。これだけで私は向かった価値があり、意味を持つものとなりました。





田中 啓太

僕が、モンゴル Ex.に参加するうえで挑戦したかった事として2つありました。

1つ目は、モンゴル語の会話ができるようになるということでした。

2つ目は、モンゴルの文化を体感するということがでした。

1つ目の、モンゴル語の会話に関しては、モンゴル語を学ぼうという姿勢があればモンゴルの方と交流がうまくいくのではと思っていたのですが、難しかったです。もっと、しっかりすればよかったなと今では思っています。ただ、「チー・ヤースン・ゴー・ゴー・オフンベー」という口説き文句は今でも頭に残っていて、思い出の1つだなと感じています。

2つ目のモンゴルの文化の中で、僕は特に、遊牧民の方はどのような生活をしているのかを気になっていました。シャワーもトイレもなく、冬になると気温がマイナスになるという土地にどうして長いあいだ生活出来るのかと。僕は、1週間で草原の生活を満喫できました。しかし、彼らは僕たちが帰ったあとも草原のゲルで暮らしています。朝は5時に起床だそうです。見渡す限りの草原だったので、遊牧民の子供たちは学校に通うだけでも大変だなと、思いました。

1週間だけですが、実際に行ってみて思いました。「遊牧生活は、できるかどうかは別として楽じゃない。」と感じました。

最後に、モンゴル Ex.は自由な時間が多いです。僕自身も実際に行ってみて感じました。午前中に馬に乗って、そのあとはずっとフリーな日もあったほどです。僕の場合は、日本では時間にしばられて生活しているので、現実離れたのんびりとした生活ができたことはよかったです。ただ、時間が有りすぎて後回しにすることも多くありました。例えば、日記を書く時間はたくさんあるのに、後回しにしたりしました。

夜は、お酒を思っていた以上に飲みました。体も馬乳酒でお腹をくずさなかったこともよかったです。

僕自身が思うモンゴルでの上手な時間の使い方は結局わかりませんでした。ですので、難しく考えず、草原では自分の好きなことをすればいいと思いました。僕にとって、草原での生活は長いなと思っていましたが、終わってみればあっという間のモンゴル Ex.でした。





簾淵 絢子

私は時間を気にせず自由にすごすこと、草原に寝転がって満点の星空を見ることに憧れてモンゴルE x.に参加しました。草原までのデコボコ道。どんな生活が待っているのだろうとワクワクした気持ちを抑えることができずにいた一方で、日本にいたころから考えていた「暇な時間をどう過ごそう。せつかくの時間を無駄に過ごしてしまったらどうしよう。」という不安が頭の中から離れませんでした。草原に着くと見渡す限り何もなくて、最初は自分が何をすればいいかさえないほどでした。とりあえず草原に寝転がって、走り回ってみたり、ボール遊びをしたり、気の赴くままに過ごしていると、ずっと抱え込んでいて不安がどこかへ消え去ったような気がして、こんな小さなことを考えていたのかと思うようになりました。私の日本での生活は、バイトや学業、遊びなどに日々追われていて、「気の赴くままに過ごす」ということがあまりにも久しぶりのことのように感じ、子供のようににはしゃいで、走り回ったりすることがとても新鮮で、楽しくて、ずっとここにいたらなと思いました。草原での生活の中で“暇”と感じた瞬間はあまりなくて、ゲルにもたれて空を眺めている時間や、何も考えずにぼーっとする時間さえも、私にとっては大切な時間でした。きっと日本にいれば、このような時間を“大切”だと感じることはなかったと思います。日本に帰って多忙な生活に戻ったとしても、この感覚を忘れずに生活していきたいと思いました。予定なんてまったくない草原での生活。私の日本での生活とは正反対だったけれど、草原での7日間は私が今まで過ごした日々のなかで一番充実していたような気がします。

また、3回生という就活を来年に控えたこの時期にモンゴルに行けてよかったと思います。それは自分がこれから何をしたいのか、について考える時間がたくさんあったからです。結局明確な答えはでなかったけれど、色んな人の夢を聞いて、日本語を一生懸命勉強するモンゴル人メンバーを見て、私も頑張ろうと思うようになりました。

私は明確な目的をもってモンゴルE x.に参加したわけではなかったけれど、とても充実した日々を送ることができました。このモンゴルE x.に参加できたこと、みんなに出会えたことをとても幸せに思っています。





モンゴル Ex. フリーエッセイ

神戸松蔭女子学院大学 神夏磯 晴香

私がモンゴルを訪れようと思い立ったのは、「なにもしないをしたい」という思いからでした。学生最後の夏休みを大好きな先輩たちが過ごし、様々な想いを動かされたモンゴルで、私も同じように「なにもしないをして」、自身の大学生活で起こった、全ての喜ばしいこと、怒っちゃたこと、立ち直れないくらい哀しかったこと、今、思い出しただけでも、笑ってしまうような楽しかったこと、すべてのことを、何もない草原で考えて、何かを得たいというのが日本を旅立つときの思いでした。

実際に、モンゴルに到着して草原に行くと、思っていた以上に何もない！！というのが一番の感想。ある物と言え、鮮やかな緑色の草原に映える真っ白なゲル。見渡す限りの緑。青く透き通る空。大学生活を、今までの過去の自分を見つめ直すはずが、到着するやいなや、様々な初めてに出会ってしまった。くそお。もう、たのしい！！

草原で過ごす時間は、日本のように縛られておらず、好きなことを、時間を気にせずできる。そんなわたしが見つけたベストな過ごし方は、ご飯を食べて、みんなと話して、歌って、日向ぼっこをし、しゃぼん玉をして、読書して、散歩をして、星空を眺める。と、日本で同じように時間を過ごしていたら、「今日は、なんにもしなかったなあ」と言うような過ごし方。でも、モンゴルでは、こんな「何もしない」に「色」がついて、「何もしないをする」ことで見えてくる様々なことがあるんです。言葉に出来ない自分の語彙力の無さに腹が立つけど、もう、すごいんです。それは、もう！なかでも、星空を見ながら、草原に寝転がって聴く、音楽は涙なしには語れません。22歳にもなって、お星さまを見ながら、泣いちゃうなんて、そんなロマンティックな乙女心があるなんて！と、少し安心して、そのあと、膨大な不安が流れ星と共に押し寄せてきたわけですけど、そんなことは、お月様に東にもっていったもらいましたとき。

まあ、何が言いたいかというと、私は、この2014年のメンバーでモンゴルに行けて本当によかったです。このメンバーじゃなかったら、見つけれなかった感情や想いがたくさんあったとおもいます。私たちに機会を与えてくれた、ジャギさん、テッペイ、全てのモンゴル人メンバー。

たっちゃん、ふえいすさん、みーくん、てれ、のぞみ、じょっふ、ゆうちゃん、ななこ、ゆいちゃん、あやこす、ちなみん、あんちゃん、りお みんな、だいすき。ありがとう。





【何も言わずに】フリーエッセイ【行こうモンゴル】

甲南大学 4 回生 山内遼太

フリーエッセイということで、モンゴル Ex.2014 の前後を総評しようといきたいのですが・・・。なかなかひとつの結論にまとめるのは難しいです。いいと思えたことも、よくないと思ったことも同じくらいありました。どうもてれです。

まずは僕自身がこの Ex.に参加すると決断したこと、そのこと自体に大いに意味がありました。そこには未経験の出来事がたくさん詰まっていた、自分の人生にひとつ点を穿つことができたと思っています。日本の外の世界を見聞きし感じ、その地を踏みしめ歩くことで得たものはひとつ、「たかが違い、されど違い」ということ。違っているからこそ得た刺激や高揚、違うのはたった少しにすぎないゆえに生まれる安心、そうして自分と他人が何かを分かりあうこと。これらすべてはとても曖昧な表現に尽きてしまうけれど、この感覚が伝わるならとても光栄なことです。

こんなことを書いた後にネガティブなことも書きたくないのであくまでポジティブに捉えていただきたいのですが、この Ex.を終えた僕はいまだ有終の美にありません。つまり、僕が経験したこの Ex.が大きな点を作ったと言いながらもいまだ線を引いているのです。もしかすれば、こう思う人は僕だけじゃないのかもしれませんが。

人と人の距離が縮まるのは紙一重のタイミングだと思います。それを掴んだ人はその一瞬を容易なものだと思い、そうでない人は困難だと感じるのでしょう。すなわちタイミングを掴みに行く勇氣には容易も困難も関係なく、ただ行動するかしないかの違いがあるものなのだと再び知らされました。何を理屈っぽく言おうが、物事は理屈のみでは解決しないということです。

時間はいつでも作れます。それは学生も社会人も同じこと。ですができることなら、まだ半年の猶予がある今のうちに 1 度は、このモンゴル Ex.にかかわった人・これからかわろうとしている人、顔を合わせて話をしましょう！（どうしようページ余った！！）

※とりあえずこの Ex.で困ったこと/注意した方がいいこと書きます

航空券は結団式後にすぐ手配/空港には二時間前到着厳守/トランジット、乗継に無理がないか確認/地球の歩き方があると便利/スーツケースには余裕を持たせよう/小さいショルダーバッグともうひとつリュック的なものがあると吉/現地の人はわりと適当なので神経質にならないのが吉/Wi-Fi ポイントはファーストフード店が安定する/一部の現地の人には英語の方が伝わりづらかったりする/換金は思い切って大胆に多めにしておこう/曖昧な主張や願望は伝わらない、「する/しない」・「したい/したくない」ハッキリと（「大丈夫」ではなかなか伝わらなかった）



Ex.を終えて

神戸支部 甲南大学 4回 木村竜也

この8月、念願のモンゴル Ex.に行ってきた。といっても「4回なったら行きたいなー」ぐらいの想いであつたが。さらに言うなら決め手は「お前モンゴル行く?」「行くわ」というヒジョーに軽いノリであつたが。

しかし、結団式・勉強会と顔を合わす毎に皆の親睦は深まり否が応でもモンゴルへの期待が増していった。このチーム一丸となって何かを作り上げる空気感は、学生の醍醐味であろう。

しかし、そんな仲の良いチームでも色々と問題は浮上するもんだ。出国前に財布擦られる、飛行機の時間が違う、環境の変化によるストレス、仲が良いことに起因する弊害 etc…。それをコツコツと解決して、さらに仲を深めるのもまた、学生の醍醐味であろう。モンゴルの魅力は他のメンバーが語ってくれると思うので、俺は手短に「Ex.を創る」ことの魅力でも語ろうと思う。

もし、これを読んだ後輩諸君が Ex.に行くならぜひ、団長に立候補してほしい。それは既存の Ex.でもチームの舵取りをして作り上げることを誰より味わえるからだ。メンバーが仲良くなることが誰より嬉しいからだ。外国人とのコミュニケーションに誰より積極的になろうと思えるからだ。そして、誰より日本をもっと好きになるからだ。

欲を言えば、新しい Ex.をじゃんじゃん立ち上げてほしい。

ここ最近、Ex.参加者が少なくなっている。それは個人的に非常に寂しい。折角 I.S.A.に入ったのなら、ぜひ一度は参加してみたい。別に海外行って意識高えだろアピールせよ、ということではない。俺自身、海外なんか興味無かったが行ったら行つたで、未体験の楽しさがある。

ちょっとでも興味湧いた奴は、神戸支部の赤色の服をよく着ている少しアゴが長めの男に声をかけてくれ。それ、たぶん俺だから。





「言葉の壁を越えたと感じた瞬間」

西端 優

草原生活最後の夜のキャンプファイヤーを囲みながら誰かが言いました。「今はまだ正直、モンゴルに来てよかったな～という実感はない。でもきっと日本に帰ったらそう思うんだろうな。」私もこれを聞いて確かにそうだな、と感じました。当たり前ではない生活が当たり前になっていくことについて行くのがやっとで、その生活を実感する間もなく時間はあっという間でした。

モンゴル Ex. 共通言語は日本語と聞いていましたが、今年は日本語・英語・モンゴル語の3つの言語を少しずつ使ってコミュニケーションをはかる必要がありました。英語より日本語が通じる人、モンゴル語しか通じない人など様々なメンバーがいる中で、初対面の外国人同士が生活を共にして距離を深めることに、最初は不安がありました。そんな中でも、ゆっくり隣に座って話をしたり、少しでも通じる言葉を選んで冗談を言い合ったり、笑ったり踊ったり、肩をくんだりハグしたり…言葉以外にもこんなにコミュニケーションの手段があるんだと初めて肌で感じました。しかしそれを最も強く感じた瞬間は、チンギスハン空港で皆とお別れをして一人になってからでした。飛行機が離陸してウランバートルが小さくなって見えなくなるまで、皆と一緒にいた時には感じなかった寂しさや、気付いていなかった愛おしさが涙になって、一気にこみ上げました。たった2週間なのに、こんなに人の温かみや愛情を感じられるのかと感動しました。そしていつか必ず、もう一度大好きな彼らに会いに来ようと心に誓いました。

プログラムを終えて改めて気付いたのは、国や文化は違えど皆同じ人間であること。同じ様に感情を持っていて、同じ肌の温かさがあって、心は通じるんだと、今までで一番強く感じました。そして、いつもはシャイな自分が少しはオープンマインドになれたこと、その環境に出会えたこと、親切で温かくて愛情深い素敵な仲間に出会えたことを本当に感謝します。モンゴル Ex.、心の底からありがとう！I love you all!!!!!!

追記：「数少ない言語」とは、「センベノー（こんにちは）」「バイルラー（ありがとう）」「ザー（はい）」の3つです。私は2週間、この3語でコミュニケーションの8割を補っていました。笑 インターネットで知らない人のブログにも、1か月のモンゴル滞在をこの3語で乗り切ったと書いているのを見つけたので、まず覚えるならこの3つがおすすめです！笑





柳瀬 梨央

ゲルについて

・ゲルの構造

ゲルはモンゴル高原に住む遊牧民が使用している伝統的な移動式住居である。

ゲルは円形で中心には2本の柱で支えられており、屋根部分には中心から放射線状に梁が貼られている。この中心の2本の柱は夫婦を象徴している。なので、この2本の柱のあいだを渡ったり、ものを渡したりしてはいけない。また、梁の本数にも意味があり、モンゴルの縁起の良い数字は9とされていて、梁の本数も9の倍数の81本の場合が多い。

この骨組みにフェルトを覆いかぶせる。このフェルトは羊の毛を水で濡らし固めてそのあと馬を使い薄く伸ばして作られている。

ゲルの玄関は南を向いて建てられている。玄関に入って左が男性のベッドなどがおいてある居住空間で、右側は女性の居住空間がある。柱が立っている中心の間には炉が置いてあり、暖をとったり料理をしたりする。玄関の正面は神聖な場所であり、仏壇などの宗教関係のものや貴重品などが置かれている。

暑い日は下のフェルトをめくり上げて風通しを良くする。冬はフェルトの枚数を2枚に増やし防寒する。

私はゲルに泊まる前は小さいしとても不便だと思っていたが、実際生活してみると天井が思ったよりも高いのであまり小さいとは感じなかった。炉もあるので、晩は火をつけると十分暖かいし快適だった。

・仮設住宅としてのゲルについて

ゲルは日本で仮設住宅としてとても適していると考えられている。東日本大震災時、仮設の施工が遅くたくさんの被災者が大変な思いをした。それは日本で建てられているプレハブ式の仮設住宅は基礎工事が必要であるため施工に時間がかかるからである。一方ゲル式仮設住宅の場合、平らな土地さえあれば基礎工事が不要であり土地も傷めず、またコスト面でもゲル式の方が安いとされている。将来巨大地震が発生するといわれているので、モンゴル民族の知恵であるこのゲルを仮設住居として使用すれば、仮設住居待ちなどで、大変な思いをする人が減るのではないかと感じた。



意外と必要！持ち物リスト

☆カイロ・・・寝るときなどに

☆防寒具（手袋）・・・日本の一月くらいの寒さなのでそれを耐えられる程度に（夜に星を見るとき等にも必須）

☆靴下草原の日数分＋一日分くらい
・・・足が砂などで毎日汚れるため、最低一日一足

☆麦わら帽的な・・・背中も日焼けするため、首筋もカバーできるように

☆サンダル・・・朝起きて身支度を整える前などに

☆懐中電灯・・・夜暗いときに、草原がでこぼこしている為

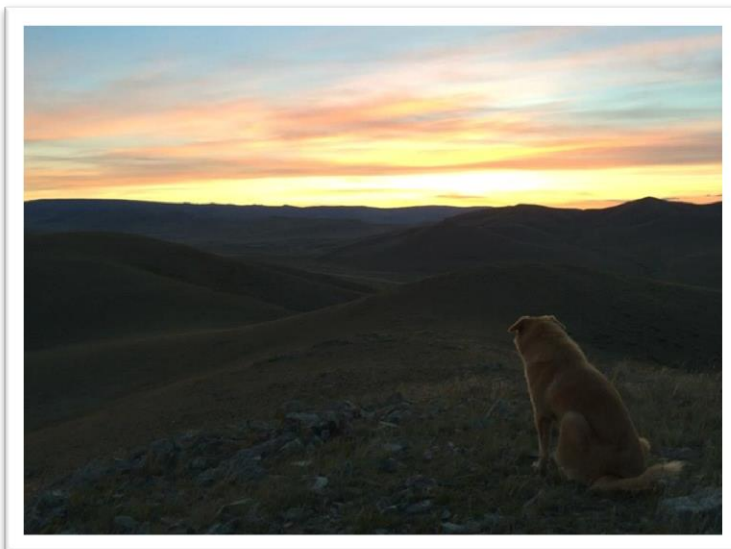
☆サングラス・・・ボール遊びをする際などに

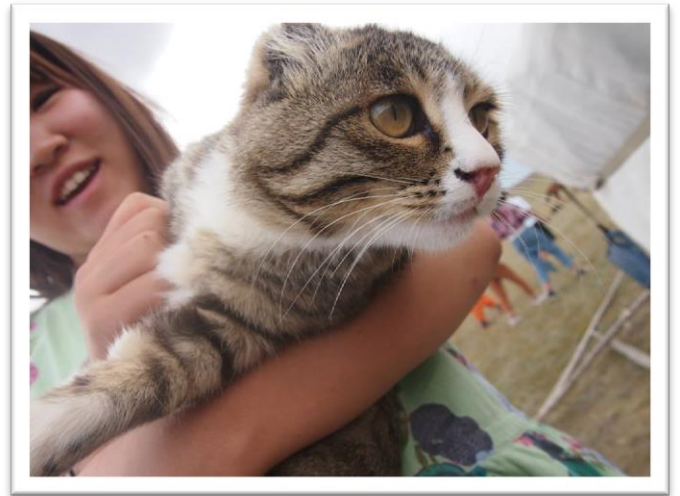
☆トイレットペーパー・・・意外に忘れがち

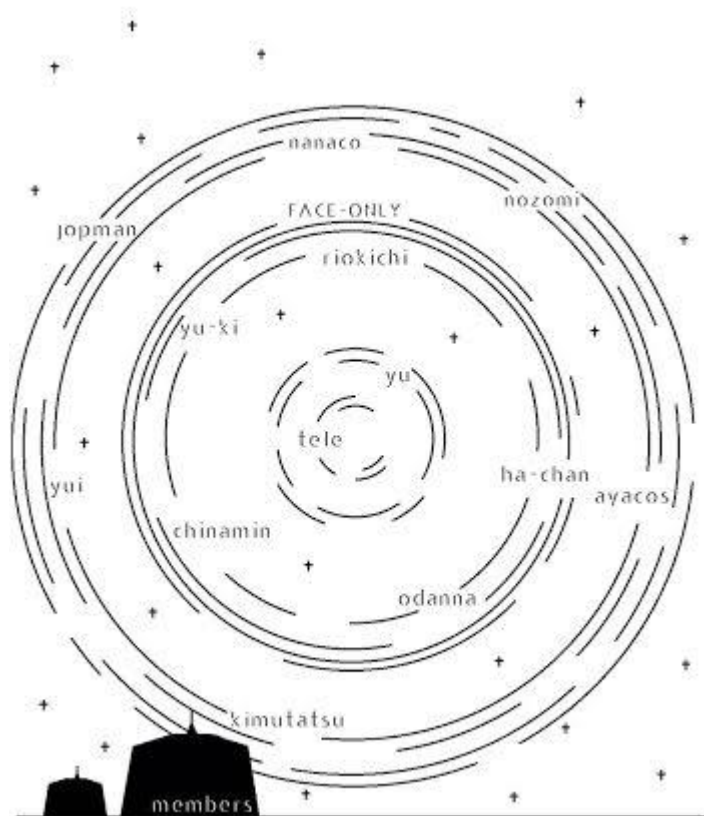


PHOTO GALALY









報告書係

関本 望 (九州支部 4 回)

簗淵 絢子 (神戸支部 3 回)

発行元

International Student Association (日本国際学生協会)

発刊日

9. 22. 2014